

元気にな〜れ

275

今月は ● ● ●



社会福祉士 畑山 賢二です。

孤立をさせない地域を目指して 〜「孤独死」という新たな課題〜

高齢化の進行に伴い、全国的に「**孤独死**」という新たな課題が浮き彫りにされてきております。これは一人暮らしの高齢者に限らず、高齢者夫婦、中高年男性へと広がり、全国的な推計では**毎年約3万人**にのぼるとも言われております（**傾向としては男性が多い**）。

このような背景には高齢化の進行はもとより、近所つき合いや地域活動への参加の機会の減少、プライバシーを尊重（個人情報など）する傾向などが指摘されています。



平成22年12月現在の町内の高齢化率⇒**32.3%!!** 地区によっては、**50%**を超えているところも…

※高齢化率…総人口に対し65歳以上の人
が占める割合のこと。



高齢化が進行し…

**残念なことに町内においても「孤独死」という事例が
これまでに何件か実例として存在しています。**

問題点



制度的にどうこうすることはなかなか難しい…

**何よりも地域住民（特に近所に住んでいる方）の日常生活から「普段と違う」という気付きが有力です。
昔からの高齢者本人の状況を知っている地域住民の情報を生かした活動などは明らかに制度に勝ります。**

このような現状から地域包括支援センターでは、町内会や民生委員、地域住民の協力のもと「**高齢者見守りネットワーク事業**」を展開しております。

この活動により**実際に倒れているところを発見され、早期対応することにより命を取りとめたケース**もあります。

これ以外にも高齢者の生活には危険が多く「**消費生活被害**」や「**虐待被害**」を受けていることもあります。

見守る側が責任を感じる必要はなく、日常生活の中でさりげない見守りや声かけにより命や危険が救われるケースもありますし、いつ自分も同じような境遇に置かれるかわかりません。

地域包括支援センターとして、『**高齢になっても安心して暮らせる地域づくり**』をするためには、**地域に住んでいる皆さんの協力が不可欠**であることを、これまでの事例を通して実感しております。

田舎ならではの「顔の見える関係」から、少しでも住みやすい地域づくりをしていきましょう。